

『原爆文学研究』投稿規定

- 一、原爆文学研究会の機関誌として会員からの意欲的な投稿を歓迎します。なお、会員以外の原稿掲載については研究会事務局で判断します。
- 二、投稿に際しては、住所・電話番号を明記の上お送り下さい。原稿は返却いたしませんので、お手元に控えをお残し下さい。
- 三、パソコン等を使用の場合はプリントアウト原稿にデータファイルを添付の上お送り下さい。
- 四、原稿は、新字のあるものはなるべく新字を用い、注の形式等は既刊のものに準拠してください。
- 五、投稿者は各自の原稿一頁（機関誌の書式）につき一〇〇〇円を発行経費として負担することを（ご了承下さい）。
- 六、次号（14号）の締切は、二〇一五年九月末日です。

編集後記 第13号をお届けします。今号は一本の批評を掲載しております。あえて「批評」と一括りにしたのは、いわゆる論文の他に年表やワークシヨップの発言記録など形式としては多様なものを掲載しているからです。本誌はこれまで「批評」と「エッセイ」を二本の柱として、「書評」「詩」「映画評」「作品紹介」「小説」

「証言」などの部立を設けてきましたが、今回は集まった原稿を見て「批評」と大きく括るのが適切であると判断しました。形式の幅もそれぞれの執筆者が多様なアプローチで批評を試みた結果とご理解いただければ幸いです。

今年から来年にかけて行う連続ワークシヨップの特集も掲載しております。かつて本誌第4号（二〇〇五・八）の編集後記にも書きました通り「戦後60年」のときには何の特集も組まなかったのに、なぜ今回は特集を組んだのか。そのねらいについては「特集「戦後70年」連続ワークシヨップについて」（一五五頁）をご覧ください。何とか企画を充実させ、雑誌とも連動させて意義ある取り組みにしたいと考えております。この特集もあつて今号の頁数はこれまで最大だった第10号を超えました。来年の編集作業もがんばろうと今からはりきっています。

今号では会員外から石田優子氏・渡部朋子氏・渡部久仁子氏・キアラ・コマストリ氏・道場親信氏からご寄稿いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

読者のみなさまからのご意見、ご感想などお待ちしております。

(N)

原爆文学研究

13

二〇一四年二月二日発行

編集 原爆文学研究会

八四〇六〇

福岡市城南区七隈八一一九―一

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

発行

(有)花書院

八〇〇〇三三

福岡市中央区白金二一九―二

TEL 九三五六〇六七

FAX 九三五四四四二

定価 一、二〇〇円(本体一、一〇二円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。